

この大問は、どの観点か

この紙のゴール：定期テストの大問を、迷わず観点到割り振れるようにする

判定

迷ったら、この1問だけ。その場で考えないと書けないか？ 知っていれば書ける＝知識・技能／その場で読んで・選んで・組み立てないと書けない＝思考・判断・表現。上手さや難しさで決めないのがコツです（難しい知識問題は、難しいだけの知識・技能です）。

早見表

知技＝知識・技能／思判表＝思考・判断・表現

語彙の意味・つづり	知技	知っていれば書ける
適語補充（既習の文法）	知技	型の当てはめ
※ 語順整序（並べかえ）	知技	既習の型を当てはめる作業。ここを思考・判断・表現に置くのが最も多いズレ
和文英訳（部分・既習の型）	知技	型が決まっていれば知識
※ 教科書本文の内容一致（既読）	知技	読んだ本文の再確認＝記憶の確認になりやすい
初見英文の内容一致・大意	思判表	その場で読んで判断する
初見英文の推論・筆者の主張	思判表	書かれていないことを組み立てる
図表つきの実用文（複数資料）	思判表	情報を照らし合わせて選ぶ
自由英作（意見文・要約）	思判表	内容を自分で決めて構成する
リスニング（事実の聞き取り）	知技	聞こえた情報の把握
リスニング（意図・態度の推測）	思判表	場面から判断する
やり取り・発表（実演）	思判表	その場で選んで話す

「主体的に学習に取り組む態度」は、定期テストでは測りません

テストの中に態度の欄を作らないこと。見るのはテストの外ですー振り返りの記録、直しの提出、次に何を変えたかの記述、パフォーマンステストの2回目に向けた練習の跡。提出したかどうかだけで評価すると、学習の調整ではなく提出物の管理になります。

観点ラベル早見表 | よくあるズレと、生徒への説明

よくあるズレ 作問で繰り返し起きる4つ

語順整序を思考・判断・表現に置く	並べかえは既習の型の当てはめです。その場で考える余地がないので知識・技能。思考・判断・表現にしたいなら、日本語なしで場面だけ与えて英文を作らせる形に変えます。
教科書本文の読解を思考・判断・表現に置く	既読の本文は、読解ではなく記憶の確認になりがちです。同じ大問を思考・判断・表現にするなら初見の英文にするか、少なくとも設問だけは初見の角度（本文にない場面へ当てはめる）にします。
難しい問題を思考・判断・表現に置く	難易度と観点は別の軸です。難しい語彙問題は難しい知識・技能。観点は「何を測っているか」で決めます。
配点が知識・技能に寄る	作問の順に書くと、前半の語彙・文法で点が積み上がります。先に配点を決めてから大問を作ると寄りません（設計図の紙が別にあります）。

作問前のチェック

- ☐ 大問ごとに観点が1つに決まっているか（1つの大問に2観点を混ぜない）
- ☐ 観点の合計配点を、作問の前に決めてあるか
- ☐ 思考・判断・表現の大問に、初見の材料が入っているか
- ☐ 生徒に配る問題用紙に、大問ごとの観点と配点が刷ってあるか

生徒に説明することは 観点で説明できると、評定の質問が減る

- ・「このテストは、知識・技能〇点、思考・判断・表現〇点で作ってあります」—最初の授業で言い切る。
- ・「大問3で点が取れていないのは、覚えていないからではなく、初めて読む英文で時間が足りないからです」—返却時に、観点で説明する。
- ・「評定は、テストの点だけでは決まりません。話す・書く活動の記録も同じ観点に入ります」—学期はじめに一度言うておく。

テストビルダー

テストビルダー（高校版）を使うと、大問を選んだそばから観点別の配点比が集計され、教師用ページに設計表が入ります。この早見表は、**手作りの定期テストを見直す**ときの1枚として使ってください。

